

20年後の本学の将来像に関するFDワークショップの開催

平成30年6月10日(日) 10:00～16:50において、本学の次世代を担うオールドミレニアル世代(40歳以下)の教員が参加したFDワークショップを1号館2階の多目的室にて開催いたしました。

“君達は大学人としてどう生きるのか”

—理事長 鹿島 勇—

9年前、本学の不祥事により失われた物はお金だけではありませんでした。それは、本学の未来を担う若い世代から、大学人として生きる決意のみならず将来の希望や夢までも奪い去りました。この期間は、本学にとって“失われた世代”と言っても過言ではありません。そこで、現在25歳から39歳までのオールドミレニアル世代と呼ばれる助教から准教授までの教員を対象に、“君達は大学人としてどう生きるのか”をテーマにFDWSを開催いたしました。

その背景として、世界レベルでの社会構造変革をもたらすグローバル化、デジタル化、ソーシャル化、これら3つの複合波は、AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)、ロボテクノロジー、ビッグデータとして私達にも少しずつ影響を及ぼし始めました。歯科医療系大学も、そう遠くないうちにダイナミックなモデルチェンジを強いられることになるでしょう。その変化への対応は大学毎に異なり、独自の強みや特徴、ビジョン、文化、伝統、歴史、その他諸々の要因によって戦略が決定されていくことになります。それら各大学の独創性をY軸とした時、X軸上には既に共通の普遍的因子として2つのターニングポイントが設定されています。1つは、AIが一人の人間並みの知性に到達する2029年(プレシングジュラリティー)です。そして2つ目は、AIが全人類の知的能力を超えるシ

ングジュラリティーと言われる2045年です。

そのX軸上に、現在、プレシングジュラリティーそしてプレシングジュラリティーを刻み、そこに世代変遷と予測した時代の趨勢を重ね合わせて2045年から現在までバックキャストすると、今まで見えなかった物や事が見えるようになります。それは、大学の未来を決定付ける人材が、まさに今回のオールドミレニアル世代であるということです。さらに2045年を迎える時、彼等は大学で要職に就く年齢となります。即ち大学の未来構想の具現化には、オールドミレニアル世代を対象とした人材育成が必要不可欠です。その成否は、彼等の上司となる新人類・団塊ジュニア世代(40～50歳)の指導能力や理解力、そのプロセスを管理統括する指導者(教授)のインフラ整備能力、人間力、淘汰力等の総合力によって決定されることになります。したがってZ軸は人材育成力となり、Y軸(独創性)とX軸(時代の潮流)の3軸を起点とするベクトルの伸びと方向性が、本学の未来の価値を決定付けることとなります。これらのことを背景に、戦略的にデザインされた本学の未来化構想の中で“君達は大学人としてどう生きるのか”について話し合いました。

彼等へのメッセージとして、未来の自分を想像し、それを基点に今を振り返り、何を成すべきかを考える。逆に、過去の業績や経験を軸に現状を分析し、将来の目標に向かって今から何をすべきかを考える。すなわち両方向から“大学人としてどう生きるのか”を自分なりに考え抜いていただきたい。そして、大学人として“生きなければ”から“生きたい”へと変わった時、すでにその資格と90%以上の可能性を有していることを伝えました。

今回のFDWSは、理事長、学長そして副学長が中心となって開催しました。参加した若き先生方の中から本学の未来を担う人材の創発を期待いたします。

若手教員啓発のためのFDWS開催報告

—学長 櫻井 孝—

我々の世代が大学の教員として入職した時代、年間200万人を超えていた18歳人口が現在120万人を割り込み、2032年に100万人を下回り、2036年には96万人まで減少します。それ以降も減少に歯止めが掛かりそうになく、30年後には80万人まで減少する予測です。加えて、本邦の高齢化は従来世界が経験したことのない、高水準・高速・高度化した状況にあることから、疾病構造にも多大な変化を生じています。

今回のFDWSは、その様な非常に高速かつ急激に変動する時代変遷の中で、将来本学を支え、ひいては日本の歯科医療を担うべき人材を育成することを使命とする若い世代の教員が、それぞれ自分の将来を見つめる機会のもと開催しました。本FDWSの中で、若い世代の教員の皆さんに、将来におけるキャリアパスを考えてもらいたい。1人の大学人のサンプルとして私がこれまで取り組んできた教育・研究・臨床における30年間の足跡について紹介しました。

鹿島勇理事長、当職、藤内祝副学長からの3題の講演の後、各参加者は4グループに分かれ、本学の将来像を話題の中心として活発な意見交換を行いました。グループ討論を通じ、それぞれが描くこれからの大学組織や運営のあり方、組織の中で

自らが果たすべき役割、これから自分が行うべきこと等について、改めて考える機会となった様子でした。参加者の中から、将来の本学の担い手が大量誕生してくれることを心から祈念しています。

医学部の2023年問題(国際標準化)

—副学長 藤内 祝—

近年、大学全体として2018年問題(進学数の減少)、医療系では医学部の2023年問題(国際標準化)が大きな問題となっています。国際標準化は従来日本の医学部の卒業証書はそのまま米国での医師国家試験の受験資格として通用していましたが、2023年以降は国際的な基準で評価を受けている大学出身者に限られてしまいます。これは「世界医学教育連盟(WFME)」から認定された医学教育を査定する公的機関「日本医学教育評価機構(JACME)」が2015年に新設され、82大学の医学部の中で横浜市立大学をはじめ18大学がこの機構の審査を受け、数大学が認証を獲得しております。要はこの機構から認証されない大学を卒業しても世界的には認められない、という非常に厳しいことになり、将来はポスドク制度などもこれに当てはまるようになるかもしれません。内容は「使命と教育効果」、「教育プログラム」、「教育資源」など9項目の240ページにも及ぶ自己点検評価書の資料作成とそれに対する査察であり、大変な労力を要します。これは将来、歯学部でもこの制度が押し寄せてくることも予想され、このことを念頭において大学運営を行うことが重要かと思えます。



ジャカランダフェスティバル 2018 開催

平成 30 年 6 月 17 日（日）梅雨を感じさせないほどの澄み渡る青空の下、ジャカランダフェスティバル 5 周年記念市民大感謝祭を開催しました。

ジャズシンガーの阿川泰子さんのスペシャルライブと新病院も組み込み多岐に渡る



スペシャルライブ
阿川泰子氏

様々な企画を用意し「過去最大規模」となりました。

100 名を超えるスタッフで臨んだ今回のフェスは、新設した「キッズエリア」や不動の人気を誇る「無料医療モール」、定番の「キッズステージ」、バラエティに富んだ「40 の出店」等々も相まって、多くの家族連れの姿が目立ちました。

11:00 以降は途切れぬことなく来場者があり、ポニーの乗馬や医療モールには順番待ちの列ができる程でした。14:00 開演の阿川泰子さんのライブが開演する頃には多少



落ち着きましたが、過去 4 回ご参加いただいているスポーツオアシス様は「食事がとれなかったのは初めてです」と嬉しそうに語ってくれました。

一つ残念であったのは、ジャカランダが満開には程遠い状態であった事です。来場者の方も非常に残念がっておりましたが、代わりに新病院

にある「1 年中咲き誇るザ・クイーンオブジャカランダ」に人が集中しました。デザイナーである小林奈生さんの解説も人気を博しました。

こうしてジャカランダフェスティバル 2018 は、過去最高の 5,563 名の方々にご来場いただき、大盛況のうちに終了致しました。

振り込め詐欺防止はがき (かもめ〜る) への協賛

横須賀市内では「振り込め詐欺」による被害が発生しており、特に高齢者での被害が多く発生しています。

振り込め詐欺被害を防止するため、横須賀警察署と郵便局が連携・協力をし、くじ付き暑中・残暑見舞いはがき「かもめ〜る」を利用して詐

欺が多発する地域に投函し、注意喚起が行われています。

本学は昨年引き続き「振り込め詐欺防止はがき（かもめ〜る）」に協賛をし、地域の方々への周知活動に協力をいたしました。平成 30 年 8 月 8 日（水）に横須賀警察署内で配達依頼式が行われ、翌日

より 7,200 世帯に一斉配布さ

れました。



大滝町会祭礼

平成 30 年 5 月 27 日（日）青空のもと大滝町会祭礼が行われ、神奈川歯科大学からは 4 名が参加し、町内会や横須賀中央の企業の方々と一緒にお祭りを盛り上げました。当日は半天姿で神輿を担ぎ、また子供神輿の誘導を行いました。普段見慣れた横須賀中央駅前から中央大通りは大勢の見学者で賑わいをみせ、その

中、子供たちは一生懸命に神輿を担ぎ、誘導をしているスタッフまで汗だくとなりました。しかし、子供たちの笑



中央左から 小泉進次郎代議士・上田滋大滝町内会会長

顔と途中吹いた心地よい風が疲れを吹き飛ばしてくれました。一緒にイベントを楽しめたこととても良い経験となりました。



平成 29 年度決算について

平成 29 年度決算は、平成 30 年 5 月 21 日（月）に監事の監査報告を受けて、平成 30 年 5 月 24 日（木）に理事会で議決され同日開催の評議員会で報告されました。

経常収支は、平成 23 年度から引き続き 7 期連続での黒字決算となりました。

歯学部の新設増を主要因とした学生生徒等納付金の増収や、医療収入の増収により、教育活動収入は前年比で 1 億 6,502 万円の増収となった一方、100 周年記念式典の開催や、新附属病院が昨年 11 月にフルオープンしたことによる運営経費、減価償却額の増加により、経常収支は前年比 8,204 万円減の 3 億

2,154 万円を計上しております。

また、教育活動資金収支差額（教育研究キャッシュフロー）は平成 22 年度より 8 期連続で黒字決算となり、財務面でも健全な経営状態を維持しております。本学の経営状態は、日本私立大学振興・共済事業団が定める「定量的な経営判断指標に基づく経営状態」の指標で測ると、正常な状態とされる A ランク（A3）に格付けされます。

なお、神奈川歯科大学及び神奈川歯科大学短期大学部のホームページにも事業報告や詳細な財務報告を公開しておりますので、ご覧下さい。

附属病院新築移転推進事業のご報告

平成 26 年よりスタートした附属病院新築移転推進事業は、平成 29 年 8 月 31 日（木）の物件引き渡しをもって無事完了致しました。当初、土地の購入代金を含めた総工費 94 億円を見込んでスタートした事業ですが、（株）

び建築コストの管理を徹底するとともに、医療機器・什器の選定についても価格交渉にあたるなど、コスト削減に向けた不断の努力を継続してまいりました。最終的に当初予算を約 1 億 5,800 万円下回る、92 億 4,200 万円で事業を完了することができました。

附属病院新築移転推進事業 事業費内訳（概算）

（単位：千円）

	予 算	決 算	差 異
土地（駐車場解体費用含む）	870,000	869,411	△ 589
建物	6,650,000	6,681,348	31,348
医療機器・器材	960,000	1,025,135	65,135
医療情報システム	500,000	474,903	△ 25,097
什器・備品	160,000	173,150	13,150
その他	20,000	17,953	△ 2,047
予備費	240,000	—	—
合 計	9,400,000	9,241,900	△ 158,100

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,637,450,000	3,637,451,000	△ 1,000
手数料	34,530,000	41,540,080	△ 7,010,080
寄付金	6,700,000	9,164,286	△ 2,464,286
経常費等補助金	457,190,000	443,354,056	13,835,944
付随事業収入	42,830,000	42,988,604	△ 158,604
医療収入	2,866,400,000	2,832,115,964	34,284,036
雑収入	269,230,000	294,650,858	△ 25,420,858
教育活動収入計	7,314,330,000	7,301,264,848	13,065,152
人件費	3,971,090,000	3,988,345,860	△ 17,255,860
教育研究経費	2,294,881,541	2,073,641,012	221,240,529
管理経費	868,621,131	920,344,922	△ 51,723,791
徴収不能額等	5,000,000	54,000	4,946,000
教育活動支出計	7,139,592,672	6,982,385,794	157,206,878
教育活動収支差額	174,737,328	318,879,054	△ 144,141,726
受取利息・配当金	2,550,000	2,666,689	△ 116,689
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	2,550,000	2,666,689	△ 116,689
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	2,550,000	2,666,689	△ 116,689
経常収支差額	177,287,328	321,545,743	△ 144,258,415
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	181,620,000	182,155,229	△ 535,229
施設設備寄付金	17,000,000	17,180,000	△ 180,000
現物寄付	3,870,000	4,075,229	△ 205,229
施設設備補助金	160,750,000	160,900,000	△ 150,000
特別収入合計	181,620,000	182,155,229	△ 535,229
資産処分差額	375,700,000	377,906,647	△ 2,206,647
その他の特別支出合計	0	0	0
特別支出合計	375,700,000	377,906,647	△ 2,206,647
特別収支差額	△ 194,080,000	△ 195,751,418	1,671,418
[予備費]	(53,242,672)		11,757,328
基本金組入前当年度収支差額	△ 28,550,000	125,794,325	△ 154,344,325
基本金組入額合計	△ 2,701,850,000	△ 2,635,389,113	△ 66,460,887
当年度収支差額	△ 2,730,400,000	△ 2,509,594,788	△ 220,805,212
前年度繰越収支差額	△ 9,564,920,000	△ 9,564,921,093	1,093
基本金取崩額	925,660,000	953,558,014	△ 27,898,014
翌年度繰越収支差額	△ 11,369,660,000	△ 11,120,957,867	△ 248,702,133

(参考)

事業活動収入計	7,498,500,000	7,486,086,766	12,413,234
事業活動支出計	7,527,050,000	7,360,292,441	166,757,559

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,637,450,000	3,637,451,000	△ 1,000
手数料収入	34,530,000	41,540,080	△ 7,010,080
寄付金収入	23,700,000	26,233,262	△ 2,533,262
補助金収入	617,940,000	604,254,056	13,685,944
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	42,830,000	42,988,604	△ 158,604
医療収入	2,866,400,000	2,832,115,964	34,284,036
受取利息・配当金収入	2,550,000	2,666,689	△ 116,689
雑収入	269,230,000	294,225,896	△ 24,995,896
前受金収入	461,290,000	464,630,000	△ 3,340,000
その他の収入	4,791,830,000	4,806,971,851	△ 15,141,851
資金収入調整額	△ 970,460,000	△ 936,413,231	△ 34,046,769
前年度繰越支払資金	2,890,580,000	2,890,576,148	3,853,852
収入の部合計	14,667,870,000	14,707,240,319	△ 39,370,319
人件費支出	4,018,580,000	4,016,133,525	2,446,475
教育研究経費支出	1,687,711,541	1,484,940,488	202,771,053
管理経費支出	690,581,131	736,020,938	△ 45,439,807
施設関係支出	2,651,600,000	2,650,451,164	1,148,836
設備関係支出	1,835,786,824	1,812,810,433	22,976,391
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	1,770,000,000	1,793,113,396	△ 23,113,396
[予備費]	(58,629,496)		6,370,504
資金支出調整額	△ 410,590,000	△ 432,091,678	21,501,678
翌年度繰越支払資金	2,417,830,000	2,645,862,053	△ 228,032,053
支出の部合計	14,667,870,000	14,707,240,319	△ 39,370,319

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	27,071,250,337	26,786,659,452	284,590,885
有形固定資産	23,208,357,940	19,896,380,671	3,311,977,269
特定資産	3,842,155,778	6,869,943,443	△ 3,027,787,665
その他の固定資産	20,736,619	20,335,338	401,281
流動資産	3,380,752,406	3,540,947,799	△ 160,195,393
資産の部合計	30,452,002,743	30,327,607,251	124,395,492
固定負債	2,199,884,812	2,223,321,778	△ 23,436,966
流動負債	924,341,739	902,303,606	22,038,133
負債の部合計	3,124,226,551	3,125,625,384	△ 1,398,833
純資産の部			
第 1 号基本金	37,884,734,059	36,202,902,960	1,681,831,099
第 3 号基本金	86,000,000	86,000,000	0
第 4 号基本金	478,000,000	478,000,000	0
翌年度繰越収支差額	△ 11,120,957,867	△ 9,564,921,093	△ 1,556,036,774
純資産の部合計	27,327,776,192	27,201,981,867	125,794,325
負債及び純資産の部合計	30,452,002,743	30,327,607,251	124,395,492

全学防災訓練の実施

平成30年6月8日(金)教職員・学生ら約950名を対象に防災訓練を実施しました。

今回の想定は「相模湾北部を震源とする海溝地震」とし「津波対応」に主眼をおきました。

相模湾で発生する地震は津波の確率が高い事を念頭に、耐震建物である「1・2・3号

館の3F以上へ15分以内での避難」を目標にしました。

訓練の生命線である「全館放送」についての一部不備と多少の時間超過、「怪我人搬送」についての反省があるものの、本部・地区隊の意識の高さや有効な指揮命令が確立され、非常にスムーズに避難が完了いたしました。

また、昨年11月に新棟に

移転した附属病院では、歯学部・短期大学の実習生を含め、総勢346名が訓練に参加しました。診療時間帯に津波が到達する想定で、診療部門は4階に避難し、5階病棟は入院患者様の誘導と負傷者の手当てを行う救急救護班を設置し、訓練を行いました。1階には全身管理高齢者歯科・障害者歯科があ



り、歩行困難な患者様の搬送を想定として、5階の救護班まで担架を用い訓練用マネキンを搬送し、より実践的な訓練が行うことができました。

神奈川歯科大学 第49回諸霊供養の会

平成30年4月21日(土)大講堂にて開催した諸霊供養の会には、櫻井孝学長をはじめ、永妻和子横須賀副市長ら、総勢500名の方々にご参列賜りました。

ご献体者様と法医解剖・検案された方々のご芳名帳を祭壇中央に奉納した後、3年生

代表の吉田健太さんと郡山麻那さんが感謝と慰霊の言葉を読み上げました。厳粛な雰囲気のもと参列者全員が献花を行い、解剖諸霊位のご冥福を祈って礼拝しました。

その後、解剖慰霊碑4年祭を執り行い、合同慰霊祭は無事終了しました。



附属病院 1F 絵画除幕式

平成30年6月28日(木)附属病院1Fエントランスにて、垣内宣子先生をお迎えし鹿島勇理事長はじめ小林優病院長ら関係者が参列し、ご寄贈いただいた絵画の除幕式を執り行いました。

「初夏のウルビーノドゥカーレ宮殿(イタリア)」「初夏のウルビーノ(イタリア)教会」の2つの絵画は、新病

院エントランスの壁面に輝きと艶を与え、来院される患者様を優しく暖かく迎え入れてくれます。

なお、横浜クリニックのエントランスには、同じく垣内先生にご寄贈いただきました「アドリア海とコルチエラ島(クロアチア)」が飾られています。



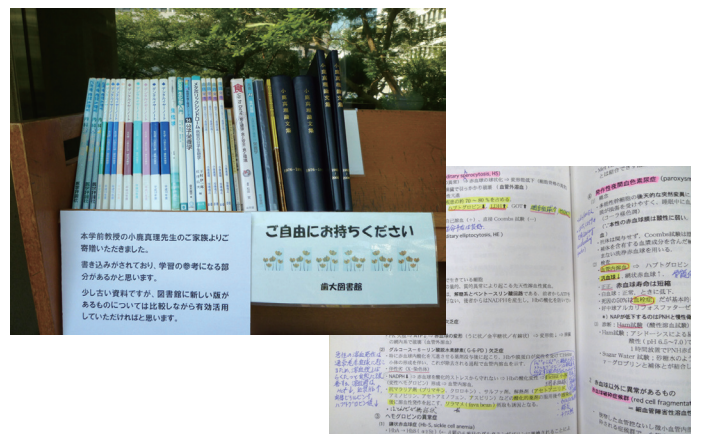
垣内宣子先生

図書寄贈

前神奈川歯科大学健康科学講座栄養機能科学分野教授であられた故小鹿真理先生のご家族より、貴重な図書を寄贈いただきました。先生が生前お使いになられた書籍にはたくさん書き込みがされており、教育・研究への熱意が感じられます。これらの貴重な図書は、学生への参考資料と

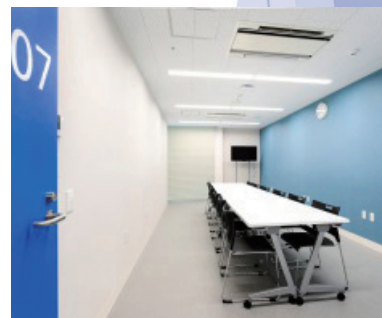
して提供させていただきます。また、書き込みがなく図書館で所蔵のなかった12点につきましては、蔵書に加えていただきました。

後進への指導に尽力された小鹿先生に深く感謝するとともに、ご冥福をお祈りいたします。



寄付者芳名

創立 100 周年記念事業として実施しておりました附属病院新築移転推進資金募金につきましては、平成 27 年 9 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの間に、個人 423 名、法人・団体等 64、総額 105,033,876 円のご寄付をいただきました。皆様のご寄付により、昨年 11 月新附属病院をオープンすることができましたことをご報告させていただきますとともに、ご寄付賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。



◇教育システム

12 階 講堂 (写真左) : 160 名が収容可能。病院スタッフへの保険講習会、市民公開講座、研究談話会、学会での講演会場などに使用されています。7 階 スチューデントドクタールーム (写真中央) : 108 名の収容が可能で、3 つの教室に分割使用も可能です。主に 5、6 年生の講義に使用されています。また指導医講習会などのワークショップ時のメイン会場にも使用しています。7 階 学修室 (写真右) : 11 個のグループ学修室があり、各 11 名の収容が可能です。学生のグループ学修やワークショップ時のグループ討論に使用しています。今回の寄付ではこれらの講堂・教室のモニター、スクリーン、プロジェクター、電子黒板、教卓システム、また口腔機能管理シミュレーター MANABOT[®] (P8) などを購入させていただきました。

ご寄付賜りました皆様へ感謝の意を込めてご芳名を掲載させていただきます。

寄付お申込時に広報誌への掲載についてご承諾いただいた方を掲載しております。また、お申込み時にどちらも選ばれなかった場合は、申込書に記載の通り、ご承諾いただいたものとさせていただきます。

＝寄付者芳名＝（敬称略、順不同で掲載させていただいております。）

個人寄付者様

安永孝一	新木貞夫	七沢真樹子	上杉栄子	高垣順子	小北竹	彌郎
金子守男	藤伸雄	奥寺元	内川佳子	高垣樹	石里一	人夫
池上佳江	今泉の	後藤幹子	槻木恵一	富澤宏	榎立川	誠彦
金子博嗣	池田内宏二	閑野政民	鈴木正明	加藤方	榎立藤	昭彦
小田嶋千	武内美稚子	佐藤順子	大内裕啓	佐藤方	山田塚	幸子
杉山義祥	岡本一八	不島健持	頼林將烈	武清浅	手前遠	重信
角井君靖	関峯村修	不田中伸	竹越澤光	清浅築	鈴木村	盛一
中島勇子	藤村陽一	田中幸貢	今松原	築佐々	長高崔	哲恭
鹿島順嘉	入井里佳	中屋博富	金子エスター	桶緒上	高崔長	嶺藤
甲斐健治	河大兼	高藤大	中納治克	緒上西	高崔長	佐嶋
川口光彦	大兼屋	藤大村	小澤井村	西平向	高崔長	嶋野
木倉一澄	屋篠貫	村西喜	鴨井村	平向三	高崔長	嶋野
中村博建	佐貫井	西喜	木村千敏	櫻梶湯	高崔長	嶋野
岩屋直あ	松本嘉彦	高江洲尚	内藤島	梶湯生	高崔長	嶋野
倉持あおい	岡田本道	高江洲美智子	小西渡	湯生村	高崔長	嶋野
文元勝隆	嶋谷上奨	山田直陽	渡部井	生村大	高崔長	嶋野
福田利一行	野上田江	塗々木和博	平田角	大遠呉	高崔長	嶋野
松井愛すみ	奥徳見	竹荒小	田角友	遠呉木	高崔長	嶋野
中村順康	徳見	小新與	角友金	木高菅	高崔長	嶋野
白松本徹	鈴西清	與斎小	金網井	菅金小	高崔長	嶋野
太守屋順俊	西清水	斎小川	網井金	金小長	高崔長	嶋野
高木忠宏	高上小	川小中	井金畑	小長玉	高崔長	嶋野
諏訪甘正	小津萩	中金山	畑田酒	玉置置	高崔長	嶋野
美齊井	上敦	金山田	田酒松	置置井	高崔長	嶋野
堀木秀幸	敦秀	田美仗	松木寺	井肥原	高崔長	嶋野
鈴木林幸進	高熊野	高橋永	寺半伊	肥原澤	高崔長	嶋野
小飯富	野平七	富岸浅	半伊居	澤館田	高崔長	嶋野
富野	平七	市邊	居高	館田	高崔長	嶋野
西嶋	七	阿		田	高崔長	嶋野

田中直人	青木一孝	半田慶介	阿保達也	中村賀子	国兼誠
林辺正彦	鈴木孝直	鳥居圭司	尾崎明美	石崎俊郎	田中良明
細谷孝明	清水宗一	岡本直治	吉澤興樹	田川佐衣子	木村博視
松田和子	田中文英	松尾進	椎木茂嗣	金光一夫	宮本義久
檀上修	泉澤美雪	村松朋彦	椎木悦子	水野文博	菊地純子
印南秀之	鈴木百合子	森本伊代子	高橋堅護	竹山暁子	鳥居憲臣
柿沼裕道	工藤隆弘	市橋亜希子	三田村典子	北嶋悦子	岸田桂子
川口雅之	川越昭治	芳賀明美	浅野善一	菊池育江	原孝子
井上寛	勝部加代	加藤孝次	宮城功	赤木真人	佐藤みゆき
向井義晴	水野せつ子	守部克彦	森田望之	陶山雅史	前川敦俊
横山章	三橋郁子	山下泰裕	玉山公基	高旨清美	宮島桜
亀谷真吾	中村松子	徳永俊英	久野初枝	佐藤重良	根本賢治
吉田三恵子	中嶋章	青地二美子	吉竹啓介	岡部清幸	吉田耕一
高田晴彦	小澤重雄	松本啓司	安保かの子	上田文子	佐藤武則
栗田和弘	林英二	森野祐子	小平聡	飯田淳一	杉崎新一郎
澤島芳実	大津直子	佐藤圭	山田妙子	湯山みはる	猪狩光郎
石飛國子	篠田吉昭	山岨道彦	安藤龍一	真弓文仁	
窪田道男	平川靖子	小宮山孝文	星元	栃内玲子	
糸瀬正通	小澤明美	小池持喜子	前田和美	富澤雅英	

企業・歯科医院様

KDC株式会社
 株式会社田中歯科器械店
 株式会社横浜セイビ
 医療法人平沼歯科医院
 医療法人楽々堂
 医療法人社団松本歯科医院
 株式会社モリタ
 松川歯科医院
 株式会社東京技研
 きぬた歯科
 医療法人谷歯科医院
 医療法人社団佐武会武内歯科医院
 医療法人社団一心会西條歯科医院
 株式会社サンエーサンクス
 タカノ株式会社
 マクロシステム株式会社
 株式会社ゼネラル
 医療法人社団平嶺歯科医院
 医療法人社団豊有会鶴が丘歯科
 有隣堂オフィスマーケティング株式会社
 長田電機工業株式会社
 まさ歯科クリニック
 朝日レントゲン工業株式会社

同窓会様

神奈川歯科大学同窓会
 神奈川歯科大学短期大学部同窓会
 神奈川歯科大学同窓会近北地区連合会
 神奈川歯科大学神奈川同窓会
 神奈川歯科大学同窓会北海道地区連合会
 神奈川歯科大学同窓会横須賀地区稲岡会
 神奈川歯科大学同窓会愛媛県支部三笠会
 神奈川歯科大学同窓会兵庫県支部
 神奈川歯科大学同窓会東京支部連合会
 神奈川歯科大学山梨県同窓会
 神奈川歯科大学千葉県支部同窓会
 神奈川歯科大学第6回生有志
 神奈川歯科大学同窓会徳島県支部
 神奈川歯科大学同窓会高知県支部
 神奈川歯科大学同窓会宮崎県支部
 神奈川歯科大学同窓会新潟県支部「稲岡会」
 神奈川歯科大学同窓会岡山県支部
 神奈川歯科大学同窓会三重県支部
 神奈川歯科大学同窓会青森県支部
 神奈川歯科大学同窓会福井県支部
 神奈川歯科大学同窓会鹿児島県支部
 神奈川歯科大学同窓会愛知県支部
 神奈川歯科大学同窓会鳥根県支部
 神奈川歯科大学同窓会富山県支部
 神奈川歯科大学同窓会鳥取県支部

神奈川歯科大学同窓会福島県支部
 神奈川歯科大学同窓会茨城県支部
 神奈川歯科大学同窓会群馬県支部
 神奈川歯科大学同窓会栃木県支部
 神奈川歯科大学同窓会大分県支部
 神奈川歯科大学同窓会埼玉県支部
 神奈川歯科大学同窓会山形県支部
 神奈川歯科大学同窓会沖縄県支部
 神奈川歯科大学同窓会熊本県支部
 神奈川歯科大学同窓会佐賀県支部
 神奈川歯科大学同窓会静岡県支部
 神奈川歯科大学短期大学部7期生卒業生一同
 鹿島勇教授同門会悠遊会
 櫻井孝教授同門会さくら会
 ウィンドサーフィン部OB会



お名前の記載漏れなどがありました場合は、誠に恐縮ではございますが募金事務室（☎046-822-8751）までご連絡ください。

寄付のお願い

学校法人神奈川歯科大学では、教育研究及び学生支援の充実、キャンパス整備等の目的のために、個人や企業の皆様にご寄付のご支援をお願いしております。

学生の教育環境の整備、教員の研究活動、キャンパス整備へ有効に利用させていただき、広く地域や社会に還元し貢献する教育機関として一層努力をしていく所存です。

本学に対するご支援とご協力を、引続き宜しくお願い申し上げます。

寄付の種類

◇臨床教育環境充実のための寄付金



100周年記念事業として実施しておりました附属病院新築移転推進資金募金は、平成29年8月31日(木)をもちまして終了いたしました。引き続き学生の臨床教育に必要な器材等に掛る寄付を随時受付しております。

【寄付金額：一口 10,000円】

- ▷お申込み方法
- ・インターネットからお申込み(クレジットカードでのお支払いとなります)
 - ・銀行振込によるお申込み

- ▷顕彰
- ・広報誌等にご芳名を掲載させていただきます。
 - ・10万円以上ご寄付いただきました方には、寄付者銘板に刻銘し、末永くとどめさせていただきます。

〈お問い合わせ先〉神奈川歯科大学募金事務局 〒238-8580 神奈川県横須賀市稲岡町82

TEL: 046-822-8751 FAX: 046-822-9317 E-mail: kdubokin@kdu.ac.jp



◇教育環境整備充実のための寄付金



教育研究及び学生支援の充実、キャンパス整備等の目的のために、個人や企業の皆様にご寄付のご支援をお願いしております。

【寄付金額：一口 3,000円】



◇口腔機能管理シミュレーター

高齢者歯科領域の学生教育の充実を図るため、新たに口腔機能管理シミュレーター MANABOT® (写真) 等を配備し、訪問歯科診療で行われる口腔のケア、車椅子上ででの治療、口腔咽頭吸引、嚥下内視鏡検査などの模型実習が可能な環境を整備しました。平成30年度から5年生の臨床実習で使用し、超高齢社会のニーズに対応できる歯科医師の育成に役立てています。

附属病院だより

「デジタル歯科診療科」とは何か？

ーミッションと展望ー

全世界のスマートフォンのデータ通信量は指数関数的に増加し、海外ではビットコインで納税も受け付けられるなど、多くの産業ではICT（情報通信技術）化が急速に進み、様々な業務が効率化されるとともに、サービスの利便性も高まっています。歯科医療においても昨今のデジタルデンティストリーの進歩は目覚ましく、そのアドバンテージは、術者・患者双方によく知られるところとなっています。このような状況の中、昨秋に開院した新病院に国内では初の診療科となる「デジタル歯科診療科」を新

設しました。

このデジタル歯科診療科には、3つの大きなミッションがあります。一つ目は、患者負担の少ないフルデジタル治療を行う事です。口腔内カメラを用いた印象採得や1日でセラミック治療を完了するワンディ・トリートメントなどデジタルの特徴を生かした低侵襲な治療を推進しています。二つ目は、デジタル技工の推進による技工士の真の働き方改革の実践で、隣接する「スマートオペレーションルーム（SORK）」が大きな役割を担っています。SORK（ソーク）は、最新のCAD/CAMシステムを揃えたデジタル技工室で、ワックスアップではなくPCに向かい補綴

装置を設計する技工士の新しい姿を具現化しています。三つ目は、デジタル診療から得られた様々なビッグデータの中から、人工知能（AI）を使って新たな価値を発見し、最適な歯科医療サービスを提供する事にあります。いみじくも国は未来投資戦略2017の

中で、第4次産業革命の技術革新を世界に先駆けて実現しようとしています。第4次産業革命のキーワードは、IoT、AI、ビッグデータ、そしてロボットです。デジタル歯科診療科の今後の展望とその可能性は無限の広がりを見せています。（副病院長 木本克彦）

デジタル歯科診療科



平成30年度病診連携セミナー

日程	担当科	演者	セミナー内容	日程	担当科	演者	セミナー内容
9月22日(土) 14:00~ 新病院12階 講堂	全身管理高齢者歯科	高城大輔	・市民フォーラム 要介護高齢者と歯科診療 ～食事が続けられるお口を保つためには～	12月15日(土) 14:00~ 新病院12階 講堂(案)	口腔外科	岩淵博史	・市民フォーラム 演題未定
10月6日(土) 18:00~ 新病院12階 講堂	内科 消化器内科 医科歯科連携センター	青木一孝 古出智子 三辺正人	病診連携推進・広報委員会セミナー 「糖尿病・消化器疾患と歯周病の 関連について」	平成31年1月19日(土) 14:00~ 新病院12階 講堂(案)	デジタル歯科診療科	星 憲幸	・市民フォーラム 演題未定
10月20日(土) 14:00~ 新病院12階 講堂	認知症・高齢者総合内科	眞鍋雄太	・市民フォーラム 「識ってますか？認知症 -今日から実践、簡単認知症予防-」	平成31年1月から3月の予定 18:00~ 新病院12階 講堂(案)	横須賀市歯科医師会学術 講演会 予定		未定

横浜クリニックだより

地域医療連携懇親会の報告

第6回地域医療連携懇親会を平成30年7月18日(水)18:30より横浜研修センターにて開催いたしました。横浜市医師会会長杉山紀子先生、神奈川県医師会会長杉本達也先生にご列席いただき、横浜クリニックの井野智院長及び神奈川県歯科大学副学長の藤内祝先生の挨拶をいただきました。その後口腔外科、眼科、矯正歯科、内科の

各科科長より、地域医療施設の皆様に患者様ご紹介に対する御礼と各科の現状の治療報告を致しました。また、台湾中山大学からインプラント歯周病研修コース(アドバンスコース)に参加する先生方のご紹介がありました。その後、短時間ではありますが、懇親会を行い、ご列席の地域医療施設の諸先生と歓談いたしました。

神奈川県歯科医師会会長の

杉本先生のご挨拶の中で、16年前に横浜クリニックが開院する時は脅威になった事を率直に述べられておりましたが、現在は、歯科治療のパートナーになったとのお言葉に16年間の時間の流れが、地

域との交流に良き関係を作って来た事を、今回ご報告させていただきます。

今後も地域医療施設と良き関係を続ける様にしたいと考えております。



平成30年度学内の教育改革に関する企画公募について

学内の教育改革に取り組む教職員に対して財政的支援を行うことを目的として、教育改革に関する企画を学内公募いたしました。平成30年度については次の先生方の企画が採択されました。

所属	職名	氏名	企画名
口腔総合医療学講座	講師	浅里 仁	臨床実習生の医療コミュニケーション能力変化の評価について
全身管理医歯学講座	講師	飯田貴俊	舌および口唇閉鎖運動障害体験用マウスピースを用いた患者体験型実習プログラム
総合教育部	講師	李 正姫	歯学部学生の学業成績に影響する要因間構造の解明 — 認知的 (cognitive) ・ 非認知的 (non-cognitive) 観点から —
総合教育部	助教	栗本勇輝	分子模型を使った化学実習の実施
全身管理医歯学講座	助教	高城大輔	高齢者疑似体験教材を使用した口腔ケア実習における学修効果の検討

講座・研究紹介

口腔科学講座は歯科基礎系分野が連携する大講座です。本学では昨年度よりこれらの領域をクロスオーバーさせ、臨床にフィードバックさせるためのプロジェクト研究(分野融合型基幹研究)が始められました。

分野の垣根を取り払ったプロジェクト研究

多くの方がご存じの口腔解剖学、口腔病理学、歯科薬理学と言った旧研究室が垣根を取り払い、口腔科学講座と言う大講座として発足したわけですが、このプロジェクト研究を始めるに当たって先生方の研究を持ち寄ったところ、それぞれの研究テーマは一つの方向を向いていることがわかりました。その一つの柱が歯周病予防・歯周組織再生研究、もうひとつの柱が高齢者を中心に口腔から全身を診る研究でした。昨年度は分野の壁を越えて旧基礎系講座の総力を挙げてこれに取り組みはじめました。これは全部で8つのユニットからなっていますが、各ユニットが有機的に絡み合っており本学歯科医学研究の中心となっています。それぞれの主なテーマと担当する先生方は以下の通りです。

- (1) 肉肉循環機能から全身疾患予防 (高橋俊介・高橋聡子)
- (2) 唾液検査で全身疾患の診断 (槻木恵一、東雅啓)
- (3) 歯周疾患モデルの検討と作製 (浜田信城、佐々木悠)
- (4) 歯周疾患防止サプリメントの開発 (合田征司、佐藤武

則、渡辺清子)

- (5) インプラント・骨再生の微小循環 (松尾雅斗、東雅啓、河田亮)
- (6) 青色光で酸化ストレス解析 (吉野文彦、居作和人・吉田彩佳)
- (7) 抗菌歯科材料の検討と開発 (二瓶智太郎、大橋桂、青木香)
- (8) 地域型病型疾病別構造調査 (山本龍生、淵田慎也)

これは、新神奈川歯科大学大学院歯学専攻研究マスタープランに沿ったもので本学がリードしてきた研究領域を進展させ、口腔と全身関連の科学的解明を促進させることが目的です。幸い、昨年11月の本学学会総会で上記全研究ユニットから成果を発表する事が出来、次号の神奈川歯学にレビュー集が掲載されますのでご一読いただければ幸いです。

研究の紹介：歯周組織再生療法

ここで紙面を借りて研究ユニットの一つとして骨再生療法を紹介致します(上記5:松尾ユニット)。失われた骨を再生する骨造成には自身の骨や細胞を使うのが安全性の面からも再生能力からもベストであると考えられます。第二の手段として化学合成されたハイドロキシアパタイトやβ-TCP、リン酸カルシウム製材などを使う必要もあるでしょう。ここでご紹介するのは多血小板血漿 (Platelet-rich plasma / PRP)、多血小

板フィブリン (Platelet-rich fibrin / PRF) と呼ばれる自己の血液を使った歯周組織再生療法です。

自己の血液中には多くの成長因子が含まれています。これをPRFとして取り出して、裂開のある抜歯窩に適応したものを図1に示します(奥寺俊充特任講師:症例)。術後、大きく骨の高さ・幅ともに増大していることが観察されます。この時の抜歯窩の中はどのようにしているか走査型電子顕微鏡で血管と骨の関係をみてみました(14日後、ビーグル犬症例)。左は抜歯のみの対照群です。歯槽窩(*)に向かって新生血管(BV)が伸展している像が見られ、周囲に残存する骨(AB)から新生骨添加(NFB)が始まりつつありました。自己の成長因子

を含むPRPを適応させると(右)抜歯窩内は密な新生血管(BV)と新生骨(NFB)で充たされ歯周組織の再生速度が促進されることが明確に観察されました。

これら本学の研究成果をグローバルなものとするために毎年様々な学会で発表しています。先月ロンドンで開催されたInternational Association for Dental Research (IADR) 総会においても多数の口腔科学講座の先生方がプロジェクト研究の成果を発表しました。今後も本学のホームタウンである横須賀・横浜に軸足を置きながら基礎・臨床、そして分野の壁を取り払った世界レベルの歯科医学研究を続けていきたいと考えています。

(口腔科学講座 教授 松尾雅斗)

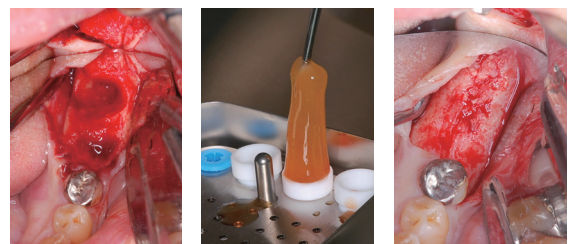


図1: PRFによる骨造成: 裂開のある抜歯窩(左)に自己の成長因子を含むPRF(中)を適応すると、骨の高さ・幅ともに増大する(右)。

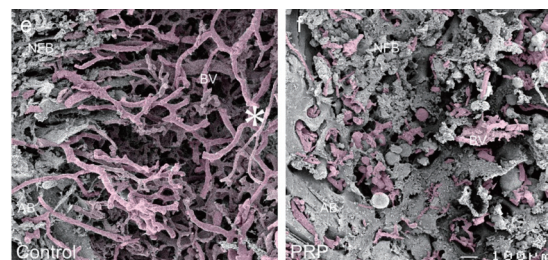


図2: PRPによる骨添加: 抜歯14日後(左)、歯槽窩(*)に向かって新生血管(BV)が生じていた。周囲に残存する骨(AB)から新生骨添加(NFB)が始まりつつあるのが観察された。自己の成長因子を含むPRPを適応させると(右)抜歯窩内は密な新生血管(BV)と新生骨(NFB)で充たされていた。

教学部だより

歯学部

平成30年度 第1回学年別懇談会

平成30年6月神奈川歯科大学にて第1回学年別懇談会が開催されました。今年度より各学年での開催となりましたが、多くの保護者の皆様にご出席いただきました。各学年主任より今年度の担任の紹介、授業や学生のサポート体制について説明がありました。その後、希望者に対して各担任と個別面談を実施いたしました。

平成30年度「特待生」表彰式

平成30年5月15日（火）前年度の各学年成績優秀者15名が「特待生」として表

彰され、櫻井孝学長より一人ひとりに賞状が手渡されました。「特待生」は、年間成績が特に優秀であった者に対し奨学金として次年度の授業料が減免される制度で、学生にとっては勉学の大きな励みとなっています。

【特待生】2年：正井育、前田昌慶、藤本みさき 3年：猪川貴弘、林慧、陳品勳
4年：小平博之、柳川亜美、寺本圭吾 5年：入澤貴志、洪晟項、任へり 6年：上田晴香、謝耀慶、高碩璟



第50回全日本歯科学生総合体育大会

平成30年7月11日（水）、神奈川歯科大学にて第50回全日本歯科学生総合体育大会の団結式が行われました。今大会は本学が総合主幹を務めました。教職員・学生とともに同じポロシャツに身を包み、櫻井学長からの激励の言葉をいただきました。学生代表より選手宣誓にて大会での活躍を誓いました。



夏季部門は平成30年7月30日（月）～8月10日（金）に開催されました。各地で熱い試合が繰り広げられ、本学も猛暑の中健闘いたしましたが29校中27位でした。

この度は大会運営にあたり、多くの方々にご協力いただき、誠にありがとうございました。



短期大学部

平成30年度保護者会総会・懇親会開催

平成30年6月6日（水）15:00より、6号館1F横須賀ハーバー（学生食堂）にて平成30年度保護者会総会が開催されました。保護者会役員、一般保護者、教員の前で、会長が前年度の中原信子様（歯科衛生学科）から新たに白須直美様（歯科衛生学科）にバトンタッチされました。また、会計及び活動報告と新年度活動計画案が承認されました。続いて行われた懇親会は長谷学長の挨拶に始まり、短期大学部や学生の近況が報告されました。各テーブ

ルでは30余名の教員と保護者の方々との情報交換が活発に行われ、貴重な時間を過ごすことができました。

平成29年度成績優秀者表彰

平成30年4月23日（月）平成29年度各科学年の成績優秀者4名が表彰されました。

【歯科衛生学科】2年：榎本愛海、3年：赤木奈々

【看護学科】2年：杉野見美、3年：小原友華



高雄医学大学から教員と学生が来学

平成30年7月9日（月）から12日（木）までの4日間、台湾の高雄医学大学口腔保健学科の教員と学生2名が短期大学部を来学されました。期間中、附属病院・資料館の見学、高齢者施設訪問や日本の歯科衛生士についての

講義、歯科衛生学科の実習等に参加しました。また、歯科衛生学科3年生、高雄出身歯学部学生、8月に高雄医学大学に訪問予定の短期大学部学生（海外事情Ⅱ選択）との間で情報交換を行いました。最終日の午後は鎌倉を散策し、日本の風景と文化の一端に触れていただきました。



∞お見舞い∞ 平成30年7月西日本豪雨により被害を受けられた皆様、同年6月大阪北部地震により被害を受けられました皆様には心よりお見舞い申し上げます。一日も早いご復興をお祈りいたします。

大学院の事務組織が変わりました

大学院は、これまでの教育・研究の課題解決に向けた本学の取り組みを継承しつつ、基礎と臨床を結び横断的に機能的な研究体制を組織的に構築し、近年の研究動向や社会からの要請に機敏に応える臨床能力の高い人材育成のため、平成29年度に大学院歯科基礎系専攻と歯科臨床系専攻の2専攻を歯学専攻の1専攻に改組しました。

それに伴い、平成30年3月に従来の大学院事務室から大学院教育研究部へ名称変更し、4月には業務も変更となりました。場所も本部棟3階から本部棟1階へ移動しました。業務変更の一例としては、従来の大学院教育に係る事務はそのまま継承し、研究に係る事務として、総務課で行っていた科学研究費補助金、受託研究、奨学寄付など


の外部資金に係わる究倫理審査に係る業務、病院で行っていた治験など種々、教育と研究に係る業務を一元化しました。

また、大学院の目標の一つでもある、ブランド研究創出・次世代大学人の育成につまきましても、従来から進めてきた大講座基幹研究プロジェクトに基づき、今年度は文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」へ応募もしました。次世代大学人育成につ

いても、若手研究者への研究費を予算化し、学内公募、採択に至っています。

今後、大学院事務組織改変が、新たな大学院の教育、研究力の強化への基盤の一役を担えればと考え業務を進めていきます。まだ、立ち上がって間もない部署であることから、忌憚ないご意見を賜れば幸いです。

【歯学部】オープンキャンパス開催日程


日程	内容	申込フォーム
2018年11月18日(日)	学校説明、入学ヒストリー 入試対策講座 施設見学、学食体験 先輩と話そうコーナー、個別相談等	

※全日 11:00～16:30【事前予約制】
※詳細はHPをご確認ください (URL: <http://www.kdu.ac.jp>)

【短期大学部】オープンキャンパス開催日程

日程	内容
2018年9月16日(日)	学科説明、入試説明、体験授業、学内見学 個別相談、先輩と話そう!
2019年3月17日(日)	

【短期大学部】ミニオープンキャンパス開催日程

日程	内容	申込フォーム
2018年11月18日(日)	・施設見学 ・個別相談 ※歯科衛生学科のみ通常開催	
2018年12月16日(日)		

※全日 13:00～16:00【事前予約制】
※詳細はHPをご確認ください (URL: <http://www.kdu.ac.jp>)

歯学部 2019年度 入学試験実施一覧

歯学部 定員: 110名 男女		
試験区分	試験日	合格発表
AO入試	2018年9月30日(日)	2018年10月3日(水)
推薦1期 (公募制・指定校制) 卒業生子女1期 帰国子女1期 外国人留学生1期	2018年11月11日(日)	2018年11月14日(水)
推薦2期 (公募制・指定校制) 卒業生子女2期 帰国子女2期 外国人留学生2期	2018年12月9日(日)	2018年12月12日(水)
一般1期	2019年1月26日(土) 1月27日(日)	2019年1月31日(木)
大学入試センター試験利用1期	2019年1月26日(土) 1月27日(日)	2019年2月8日(金)
一般2期 大学入試センター試験利用2期	2019年2月17日(日)	2019年2月21日(木)
一般3期	2019年3月10日(日)	2019年3月13日(水)

※詳細はホームページをご覧ください

短期大学部 2019年度 入学試験実施一覧

歯科衛生学科 定員: 120名 男女		
試験区分	試験日	合格発表
AO2期	2018年9月30日(日)	2018年10月17日(水)
推薦I期(指定校・公募) 社会人	2018年10月28日(日)	2018年10月31日(水)
推薦II期(指定校・公募)	2018年12月9日(日)	2018年12月12日(水)
一般 特待生	2019年1月27日(日)	2019年1月30日(水)
AO3期	個別にお知らせいたします。	

※詳細はホームページをご覧ください

看護学科 定員: 80名 男女		
試験区分	試験日	合格発表
AO1期	2018年9月30日(日)	2018年10月17日(水)
推薦I期(指定校・公募) 社会人	2018年10月28日(日)	2018年10月31日(水)
推薦II期(指定校・公募)	2018年12月9日(日)	2018年12月12日(水)
一般 特待生	2019年1月27日(日)	2019年1月30日(水)
AO2期	2019年3月3日(日)	2019年3月13日(水)

※詳細はホームページをご覧ください

第54回 稲岡祭
結び ~conclusion~

2018年
11月4日(日)

